

みんなで育てた**落花生**を収穫

10月30日に神崎小学校の1年生が、自分たちで大切に育ててきた落花生の収穫を行いました。

子どもたちは青々と茂った株を力いっぱい引き抜き、土の中から顔を出した落花生を一つ一つ丁寧に取り分けました。大きな実や形の変った実を見つけると、「これすごいよ!」と笑顔で声を上げる姿も見られ、収穫の喜びにあふれていました。

収穫を終えた後は、落花生を塩ゆでにした「ゆでらっか」として試食。「甘くて、おいしい!」と話しながら、自然の恵みと自分たちの頑張りを実感していました。



▲大きな落花生をゲット!

＼合併70周年記念 昭和100年で振り返る神崎今昔／ 神崎伝統の催し **ヤングフェスティバル**

平成15年（2003年）に始まった「ヤングフェスティバル」は、大学生までの若い世代が日頃の成果を披露する発表の場として続いてきました。これまでに22回開催され、ダンス、バレエ、バンド演奏、漫才、コント、ピアノなど、幅広いジャンルのステージが繰り広げられています。

近隣市町村の高校のダンス部・軽音楽部・吹奏楽部・バトン部をはじめ、地元の子どもたちのピアノやダンス演奏など、毎回多くの出演者が会場を盛り上げています。

また、今年度の第23回ヤングフェスティバルは2月7日に行いますので、ぜひご参加ください。



▲第7回ヤングフェスティバル



▲第22回ヤングフェスティバル

～神崎歴史巡り～

文字が伝える記憶 古文書と金石文の世界

私たちの町、神崎町には、利根川の流れとともに積み重ねられた長い歴史があります。その歴史を、今日の私たちに語りかけてくれるのが「古文書」と「金石文」です。

古文書は、和紙に墨で書かれた公文書や手紙、年貢帳、寄進状などで、当時の政治や暮らし、信仰を生き生きと伝えます。筆の流れや墨の濃淡には書き手の人柄がにじみ、紙の質や折り方にも時代の技が宿ります。

一方、金石文は金属や石に刻まれた文字の総称で、碑文・銘文・常夜灯の奉納銘などが含まれます。風雨に耐える石や青銅の文字は、千年を越えても消えることなく、信仰や記念、感謝の思いを語り続けます。

神崎町では、寺や神社、旧道沿いなどに碑文などが残り、先人の祈りと暮らしを今に伝えています。散策の折には、ぜひ刻まれた文字を読んでみてください。



▲並木稲荷神社の常夜燈
「常州牛堀村 金百疋 千代田稲吉」
など現在もいくつかの記述を
読むことができた。